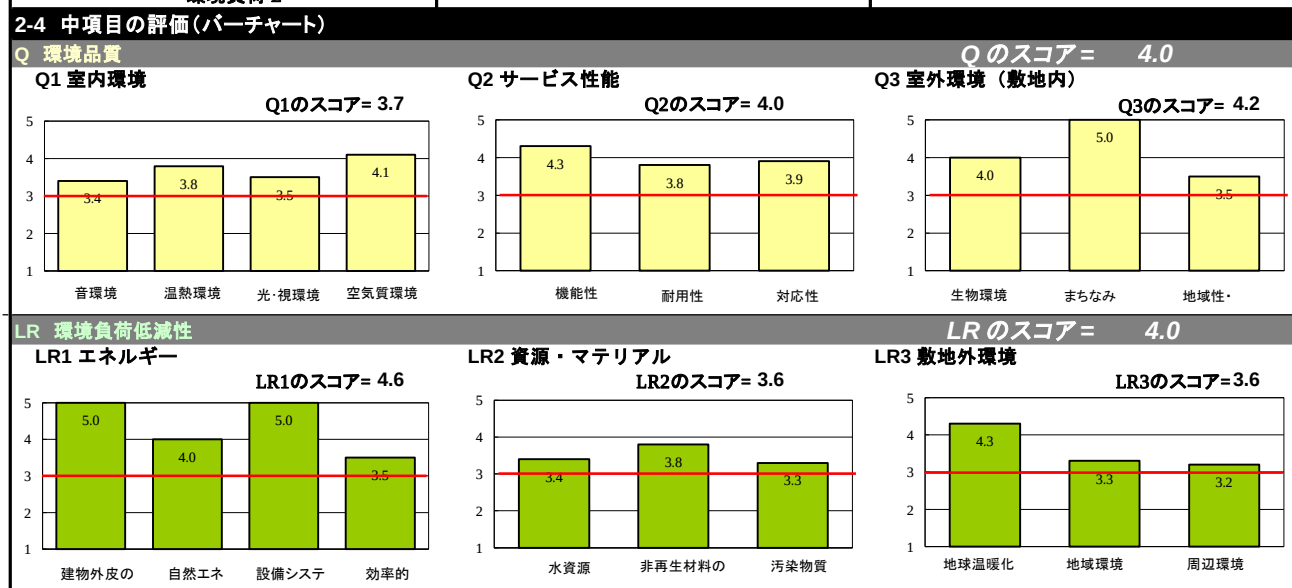
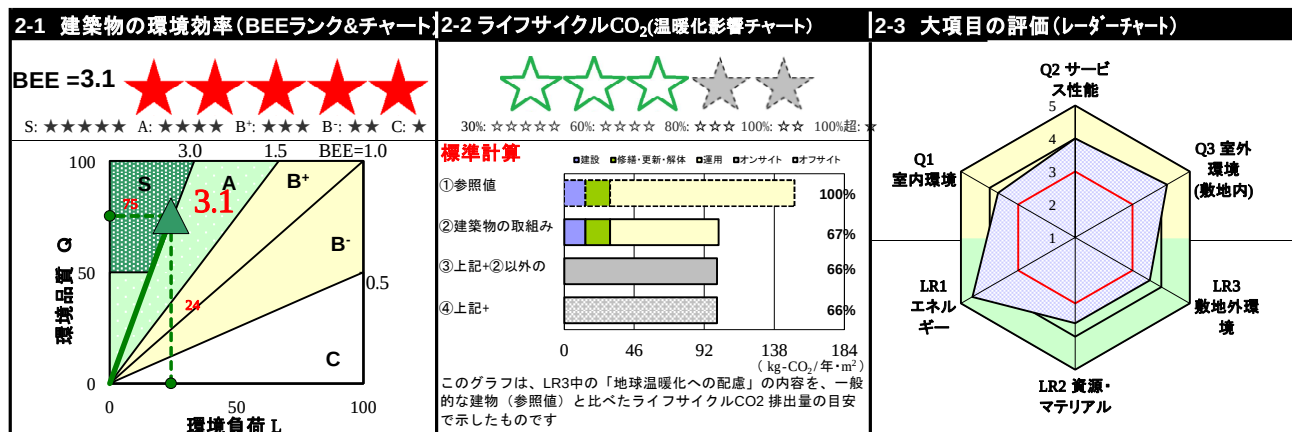


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	パナソニックホールディングス(株)技術部門西門真新様計画	階数	地上8F
建設地	大阪府門真市大字門真	構造	SRC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,480 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2025年1月10日
敷地面積	7,670 m ²	作成者	株式会社竹中工務店 須賀 定邦
建築面積	6,047 m ²	確認日	2025年1月10日
延床面積	42,094 m ²	確認者	株式会社竹中工務店 須賀 定邦



3 設計上の配慮事項		
総合		
「Flexibility」「Creativity」「Sustainability」をプロジェクトキーワードとして、将来変更対応の容易性に配慮した設備計画、知的生産性向上への配慮、環境への配慮を軸とした建物計画とした。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
建物利用者が快適に過ごせるよう室内環境に配慮した設計としている	直天部の露出仕上げとすることで更新・修繕時に容易に対応可能な計画としている	特に無し
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外気冷房、ナイトバージにより、空調負荷低減を図っている	リサイクル資材を用いるなど資源の有効利用を図っている	建物内オール電化としている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版					受付番号		R6-変-0069		
大阪府の重点評価(結果)					Osakafu-新築・既存 2018V1.0				
【建物概要】		建物名称		パナソニックホールディングス(株)技術部門西門真新棟計画					
		建設地		大阪府門真市大字門真					
		用途／区分		事務所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価		★★★★★			S		
①		CO2削減		★★★★☆			4		
②		みどり・ヒート アイランド対策		★★★★☆			4		
③		建物の断熱性		★★★★★			5		
④		エネルギー削減		★★★★★			5		
⑤		自然エネルギー直接利用					○		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
				太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
		エネルギー消費量の報告							
【評価項目】									
項目		評価内容				スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				4.3	4		
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				4.0	4		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				5.0	5		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				4.0	○		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない		
その他									
		技術の名称			考慮事項				
先進的技術の導入									
特に配慮した事項									